



ぬるぬる
マツサージ店に
ハマった千雪に
ぶっかけまくる本

「先生…これでよろしいですか？」
「胸のコリを取るには施術棒を谷間にはさむのが一番効くんです
桑山様のおっぱいは長くてやわらかいので
施術棒を包こむようにはさんで
しっかりと乳圧をかけてください」
「んっ…施術棒固くてあったかあい…♡」

「オイルも垂らしてありますので
そのまま上下に動かして施術棒におっぱいを
こすりつけてください」
「わかりました…♡がんばって動かしてみますね…♡」



「先生…いかががでしようか？」
「ええ！とってもいいですよ！
おちむちの生乳で施術棒をしっかりと
包みこんでオイルを塗りこむように
おっぱいでしごいてください！
大きく音が出るほど効きますからね」

「そのまま続ければ桑山様の大好きな
ミルクオイルが出てきますので、
もっと激しくやってください」
「ミルクオイルっ…♡こっくっ♡
ほしい…♡先生っ…こうですか…♡」
「ああいいですよ！そろそろオイル出しますね！」



「ああ……先生のザーメンミルクオイル
たくさん……♡すごい……ねばねばで熱い♡」
「そのまま乳圧かけて！おっぱいにも
顔にもたっぷりかけてあげますからね」
「はい♡いっぱいくださいあい♡」

「先生の施術棒ちんぽ私のおっぱいの中でひくひく
してます……♡可愛い……♡私うまくできてましたか？」
「ええ！素晴らしいですよ！とても良かったです
ザーメンオイルはしっかりと顔や体に塗りこんでくださいね」
「はい……♡」
「先生、他のところにもお願いしていいですか？」



「んちゅっ…♡んちゅ…♡
せんせえっ…いかがですかあ…♡」
「いいですよ！その調子でなめてください
舌をちよつとだけ出して…舌先で
ちろちろ、ぺろぺろと施術棒の先端を
優しくなめてくださいね」
「はい…♡あ…♡先生の施術棒…
さっき出したミルクオイルが
残ってて…あまくて…苦くて…
美味しいです…♡」



「せんせえっ…せんせえ…♡」

「おやおや…ガマンできなくなっちゃってしまいましたか」
「先生のすっごく固くなってます♡ガウパーも

いっばい出てきてきて口の中であふれてる♡美味しい♡」
「そのまま口いっばいに施術棒を

ほおばったまま前後に動いてください

舌でときどき裏筋をなめるのも忘れないで
しっかりフェラすることでチンポミルクが

いっばい出てきますからね」

「チンポミルク♡アツアツの濃いおチンポミルク♡

先生♡出してください♡私のお顔にかけて♡」

「ええそろそろ出してあげますね」



「あっ♡出てきたあ♡ん…♡すごい量♡

こんなにたくさん♡…かけられちゃいました…♡

先生の男の人のニオイむんむんのザーメンミルクオイル…♡

すごい…止まらない…♡」

「この精液オイルでお顔パックするとすごく

お肌がキレイになるんですよ」

「そうなんだ♡嬉しいです♡もっともっと

私の顔にかけてください…♡

私をぬとぬとのザーメンで精液パックして…♡

顔も髪も全部べとべとにして…♡

はあっ…美味しい…♡先生の精液大好き♡」



めとみ

めとみ

ピピピピ
ピピピピ

びゅん
びゅん

♡♡♡

「桑山様のお尻は本当にキレイでいらっしやいますね」
「そんな…恥ずかしいです…♡」
「真っ白で大きく…」
「まるまるとした果実のように瑞々しい
ヒップラインも美しくすばらしい安産型です」

「もう…そんなに…やめてください…♡」
「あの…先生…そろそろ…」

んんんん

んんんん



「施術棒ですね」

「はい…♥ ああ…来た…♥」

「お尻はコリがたまりますからね

施術棒でしつかり刺激してあげますね

先生の施術棒固くて気持ちいい…♥」

「桑山様のお尻は大きくて僕も施術のし甲斐が

ありますよ お尻のどこがいいですか？」

「全部…お尻ぜんぶをまんべんなく
刺激してほしいです…♥」



「あ♡あっ…♡あん♡気持ちいい♡
そこっ♡気持ちいいですせんせえっ♡」
「しっかり尻コキマツサージしてあげますからね」
「先生っ♡私のお尻好きですか?」
「ええ。ムチムチでやわらかくこすりつけていて
とっても気持ちいいですよ」
桑山様の大きなお尻をマツサージして
僕の施術棒もすごく固くなってきました」

「先生っ私もっと気持ちよくなりたい♡
あったかいザーメンミルクオイル
お尻にいっぱいかけて♡」



ズッ
ズッ
ズッ

ずずず
ずずず
ずずず

「あっ♡来たあ♡先生のザーメンミルクきた♡
お尻のかけられたところが熱くて気持ちいい♡
すごい量っ♡私のお尻でいっぱい興奮してくれたん
ですか♡嬉しい♡♡」
「僕のザーメンでコーティングされた桑山様のお尻とってもキレイでエロいですよ」
「やん♡恥ずかしいです♡」

「先生のザーメンで私のお尻
ぬちゅぬちゅにして…♡
ああ…精子かけられるの好き…♡」



「お尻大好きな先生のために
今度私がマッサージしてあげますね♡」
「おやそれは嬉しいですね
よろしくお願いします」
「お尻にオイルをたらして…おちんぽに
お尻をびったりくっつけて…どうですか？」
「ああ…やわらかいお尻の感触が
直に伝わってきてとてもいいですよ」

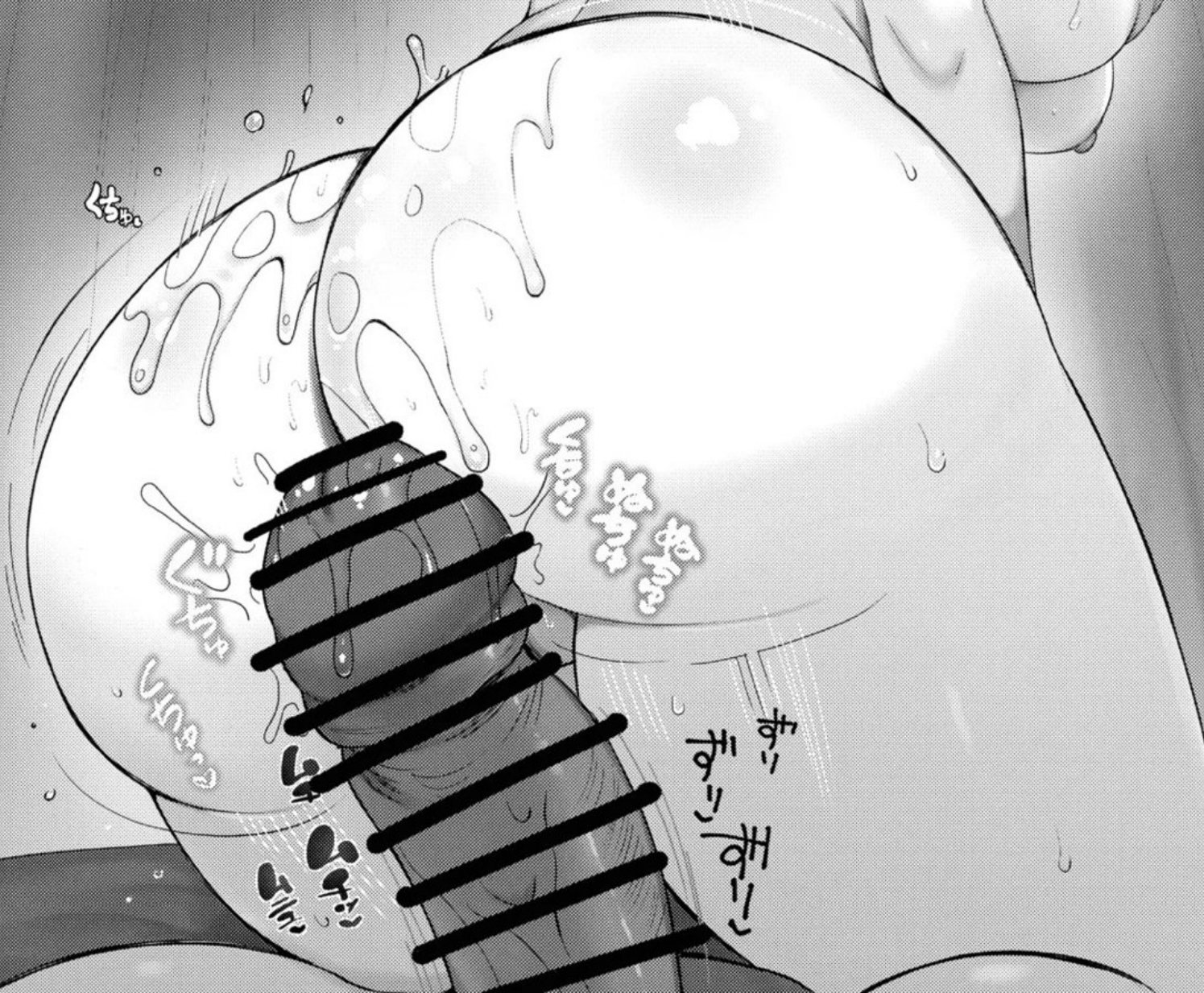


ぬと

ぬと


スリッパ

「お尻を上下に動かして…
えいっえい♥どうですか先生？」
「おお！とってもすばらしいです
気持ちよくするポイントをちゃんと
ついていきますね！オイルがくちゅくちゅと
たてる音も卑猥でとても良いですよ」
「やった♥私センスあるかも♥」
「大きなお尻を眺めながら尻ズリされるのが
こんなに気持ちいいとは知りませんでした」
「先生のお弟子さんになっちゃおうかな♥
泊まり込みで教えてもらっちゃおう♥」
「手取り足取り教えてあげますよ」



「あっ♡すごい♡
ザーメンいっぱい出たあ♡」
「ふくっ…ふう…ふう…ふう…ふう、はあ…!」
「全部出してくださいね♡びゅ〜♡
びゅ〜って溜めてたの全部出して…♡」
「はあ…っこんなに出させられるとは…
すばらしい才能をお持ちですね」
「やった♡私センスあるかも♡
千雪のお尻マッサージュ店
開いちゃおっかな♡」
「とてもいいですね僕なら毎日
通っちゃいそうですよ」
「毎日いっぱいザーメンしぼりって
あげちゃいます♡」





「先生♥先生に言われてから毎日オナニー

するようになったんですよ♥」

「それは素晴らしい!」

「それで…ちゃんとできてるかわからないから…

私のオナニーするとこ…♥見ててくれますか?」

「わかりました」

「あの…それでよかったら…先生♥

先生も一緒にオナニーしよ…♥

一人でオナニーするの恥ずかしいから…♥」

「ええ いいですよ」



「ん…はあ…♡ん…♡…っ♡」

「気持ちよさそうですわね上手にできてますよ」

「乳首も一緒にいじるのが好きなんですわね」

「はい♡乳首が性感帯なんです…♡感じやすくて…」

「どれくらい時間かけてするんですか？」

「えっと…30分くらい…長い時は一時間しちやります…♡」

「じんわり気持ちよさが広がって行くのがすく〜」

「いいんです…♡ああ…♡ん…♡」

「先生のおちんぽもおつきなってます…♡
近くで見るとたくましくてすごいら…♡」

くちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

んんんんん

ビュッ♡

ビュルルッ

乳しゃあ♡

「ああ…っ♡いったあ…♡
んんっ…♡先生のおちんぼ精液も出てます♡
もっ♡もっ♡私に精液かけてください♡♡♡」
「お顔やお胸にいっぱいかけてさせていただきますね」
「先生見てっ♡私こんなに潮ふいちやいました♡」
「すばらしい！こんな短い期間で潮吹きまで…
すっかり変態オナニストですね」
「はい♡オナニ大好きになっちゃいました♡先生のせいですよ♡」
「これは申し訳ありません。責任をとってこの後で
全身施術させていただきますよ」
「やったあ♡楽しみ♡いっぱい気持ちよくしてくださいね♡♡」

今回のマンガを描くにあたり
ゆまは東京某所にあるオイルマッサージ
イメクラ店へ取材に来た！



新パンツがすんごくセクシー！

施術着を貸して下さ！



先生の
お弟子さんになっちゃ
あ、かなる♡

ホントに言われた

代理 桑山氏

かっこいい

アパレル着用

女の子のイメプレコミュニケーション術がすんごく高い！

お店の人がとてもいい女の子を紹介していただいたおかげで
悪徳整体師初心者のゆまでもプレイに入り込み遊ぶことができました！
9割「リンパを流していきますからね…」しか言えなかったけど女の子が
当意即妙、臨機応変のスーパー接客テクでなんとかしてくれたので
最後まで楽しめました！おかげさまで大変実りある取材ができたしとても
楽しかった！！ありがとうございました！また行きたいね！

本作は楽しんでいただけたでしょうか？実用性重視のこういうCG集的な本は
私の好むところなので、評判が良ければまた作っていきたいと思ってます。

デンパツーシン

